

安全管理プロジェクト活動報告

降矢久美子^{*1} 加藤美佐^{*1} 小山哲夫^{*1} 佐藤亜矢子^{*1} 設楽浩明^{*1} 杉山孝雄^{*1}
田中協子^{*1} 徳永 誠^{*1} 平原実留^{*1} 三田和義^{*1} 川原藤樹^{*2} 川田良暁^{*3} 小林邦宏^{*3}
^{*1}物質・生命科学系 ^{*2}電気電子情報系 ^{*3}機械建設系

1. はじめに

埼玉大学では技術職員の業務に占める安全管理業務の割合が年々増加している。そこで我々は、本学の安全管理に技術職員として貢献することを目的として、平成 22 年に本プロジェクトを立ち上げ、これまでに以下のような活動を行ってきた。

- 1) 全学で購入する毒劇物の、薬品管理システムへの一括登録
- 2) 安全管理かわら版の発行
- 3) ヒヤリハット事例の収集と公開
- 4) 近隣他大学等の技術職員との情報交換や意見交換のための「北関東技術系職員安全管理ワークショップ」の開催・参加
- 5) 理工学研究科安全衛生委員会との連携による安全管理業務

本稿では、平成 27 年度における安全管理プロジェクトの活動状況について報告する。

2. 今年度の活動内容

2-1 薬品管理支援

本学では、適切な薬品管理のために、薬品管理システム IASO R5 (以下、IASO) を導入している。本プロジェクトでは、IASO 上の薬品データベースおよびユーザーの登録・更新などの基本データの管理を行っている。また、薬品の使用・廃棄に関する問い合わせにも対応している。さらに、IASO を利用して PRTR 法及びさいたま市条例に基づく指定化学物質の届け出のための集計業務も行っている。

総合技術支援センターでは、埼玉大学で購入した全ての毒劇物薬品を、IASO に一括登録している。この業務にはセンターの技術職員全員が当番であり、本プロジェクトが業務をサポートし

ている。今年度の毒劇物の登録件数は、約 1560 件であった。

この一括登録により、毒劇物薬品の登録漏れは解消された。しかし、使用量や保管場所など必要な情報が、ユーザーにより適切に更新・入力されておらず、システムが正しく利用されていないのが現状である。そこで今年度は、グループ ID、ユーザー、保管場所などの使用者の基本情報の確認、および保管場所変更状況の点検と改善勧告を行った。適切な利用状態を維持するためには、定期的な点検と勧告が必要である。来年度はそのための作業体制の整備に取り組んでいく予定である。

2-2 安全管理かわら版の発行

埼玉大学では、平成 25 年 10 月、教育研究機関化学物質管理ネットワーク (ACSES) に加入した。本プロジェクトでは、ACSES から配信される「ACSES ニュースレター」を学内の安全管理に活用するため、月一回、4 頁程度にまとめた「化学物質の安全管理かわら版」を編集・発行している。配布先は、理工学研究科と教育学部の実験系講座の教員および技術職員、事務局など全学にわたり、発行部数は約 300 部である。

1 面は毎月号のトピックスとして、配信されているニュースの中から、業務に係わる法令改正・事故事例や、学内に周知すべき事項を中心に編集している (図1)。今年度は、法令関係では「労働安全衛生法改正によるリスクアセスメントの義務化」、事故関係では、「化学物質の事故対策の保護具着用」・「有害物質の流しへの放流禁止」、周知情報としては、「薬品管理システムの案内」・「PRTR 法等による指定化学物質の取扱量の届け出」などを取り上げた。

2 頁以降の「最近の話題」では、ACSES ニュースレターから必要な情報や役立つ情報を選び、記事のタイトルと概要をまとめ、記載している。

